ISSN 0388－5569
VOL. 10 No. 2
（通巻29号）
1989.6

Library News

山口大学附属図書館報

目次

附属図書館がめざすもの　古賀秀男……1
「明倫館・山口明倫館・越氏塾旧蔵和漢書目録」の編集を終えて　蘆永秀夫……3
利用者の声……4
平成元年度附属図書館関係各種委員会委員名簿……6
寄贈図書……6
教官著作物コーナー、留学生用図書コーナー……7
『明倫館・山口明倫館・越氏塾旧蔵和漢書目録』……7
『山口大学附属図書館電算化システム』……7
ファクシミリによる文献複写について……8
人事異動、日誌……8

附属図書館がめざすもの

古賀秀男

世界の図書館の代表格として知られる大英図書館の分館にあたる新聞図書館が、ロンドン西北郊ヘンドン地区のコリンデール・アヴェニュ（地下鉄ノーザン・ラインのコリンデール駅前）に開館したのは1932年のことである。内外の膨大な新聞資料（機関誌・紙を含む）がこのときブルームズベリの大英図書館から同館に移され、その後経年とともに新収・収集が進み、現在に至っている。同館はさきの本館、1978年にやはりロンドン西郊キュー地区に新築移転した国立公文書館（Public Record Office）などとともに、訪英の際の筆者の通いつけの図書館のひとつである。同館の閲覧室はさほど広くなく、夏休暇の折には海外からの利用者が押しかけて満席のことさえあり、また自動販売機がいくつか並ぶだけのキャフテリアも質素なものだが、順次増築された書庫は奥深く延々と続き、分厚い表紙で製本された諸紙誌がずっしりと排架されている。時代の趨勢はマイクロ・フィルム化であるとしても、オリジナル版が閲読できるのはやはりありがたい。

だが利用者には便利な大型オリジナル版資料も、片や書庫からスタック・サービスに従事する図書館職員にとってはまことに難物である。あるとき、顔なじみになった職員でいつも作業着で大型資料を書庫から手押車（台車）を使って黙々と運び書架台に置いてくれる人に、「大変ですね」と声をかけたら、両腕に力こぶをつくってみせ、「これくらいのことで」ということか、にっこり微笑れた。離英が迫った日、複写物を受取り、いつもカウンターで案内と複写の受付けをしている女性にその旨を告げると、やにわに「いつ戻ってきますか」という。地球を半周するのはさほど容易ではなく、答えに窮したのだが、あれから幾歳になるであろうか。いつでも歓迎しますという彼女の言葉をいつも想起しながら、もっぱらマイクロ・フィルムと郵送注文に依存する昨今である。

新聞図書館が位置する地区は、近くに公園、スポーツ・グラウンド、ゴルフ・コースなどが散在する閑静な住宅・保養地域である。また同館から散策数分のところに広々とした英空軍博物館があって、第2次世界大戦中に鳴らしたスピットファイアはもとより、初期の空軍機から最近のものまで展示されており、活字からの気分転換には好適の場所である。

所は変ってつい先日、19世紀イギリスの新聞資料（マイクロ・フィルム）を調べるため、久しぶりに議事堂前を散策して国会図書館を訪ねた。同館は数年前から大規模な増改築工事を続

けており、昨年、新聞・雑誌閲覧室を中心とした新館が完成し（本館の一部は現在も工事中である）、ゆとりの雰囲気も感じられるスペースとなり、装いを新たにしている。それにともない昨年9月から利用サービス業務を電算化し、従来の入館証にかわって電算機用の「利用カード」を発行するようになった。かつては利用する専門資料室によっては入館時の届出が必要だったが、「利用カード」ですべて通用するようになり、また請求した図書資料の出納状況が、館内主要個所に設置されたモニター・テレビに表示され、業務もスピード・アップされた。参考案内、出納受付、複写受付・作成などのサービスも効率的になり、新館1階にはしばしくつろげる喫茶室も新設された。歴史が浅いため、同館の蔵書数と内容は不十分であるが、利用し易さと雰囲気の点では、諸外国の国立中央図書館の水準に伍すようになったといっても過言ではないだろう。

ひるがえってわが附属図書館の現況をみてみよう。附属図書館の総蔵書数は1988年3月末日現在で1,169,237冊、その内訳は本館923,168冊、工学部分館115,096冊、医学部分館130,973冊である。総蔵書数でいえば、東京大学の609万余冊、京都大学の460万余冊を筆頭にして、（第3位は200万冊台）、95国立大学の中で第13位に位置し、12位に岡山大学、僅差の14位に金沢大学がある。洋書のみをとると第16位とやや順位が下がるけれども、施設・設備も本・分館とも近年の増改築によりかなり充実したといえ、年間約38,000冊ずつふえる蔵書数と相まって、国立大学の中でも有数の図書館といえる。図書館の評価はもとよりその蔵書の総数だけではなく、質も問題である。近年では日本。世界各国の総出版点数はおびただしい数となって、知的刺激を与え研究教育活動に貢献しうる新刊書（再版、復刻、資。史料の復刻・翻刻を含む）のすべてを収書することはもはや不可能というべきであり、大学図書館では在職研究者の研究分野に応じて関連分野の蔵書が充実していく傾向が強い。本学でも、既収蔵のいくつかのコレクションに加え、少なからぬ分野において、現在も特色のある収書が進められつつあるといえよう。

日本の大学附属図書館は、とくに総合大学の場合、従来どちらかといえば図書・資料の集中管理の傾向は弱かったが、情報化時代に入りそのニーズにこたえるべく集中管理化の必要が説かれている。この集中化については、雑誌や大型叢書類とその他の図書とりわけ研究図書とを同一には扱いにくいという意見もあり、後者の集中化は利用実態をふまえたものであるべきだが、雑誌については雑誌閲覧室に足を運べばすべての雑誌を閲読（複写も）できるというメリットは大きく、集中管理の利点は共通認識となりつつあり、諸大学においてとくに自然科学系雑誌を中心に集中化が進んでいる。集中管理化を推進すれば、もちろん開館（室）時間の延長、コンテンツ・サービスの実施などの対応も必要となるであろう。利用者側からみれば、一般的には開館時間が長い方が望ましいのは明白であるが、各図書館、図書室のもつ性格と利用されうる蔵書の内容や稀少性の度合などによって、一様には取扱いがたい問題があり、また利用者側のニーズにも相違がある。そのほか開館時間は館外貸出しの冊数、期間とも関連する。図書館ではこうした状況と実態を総合的にふまえ、利用者のニーズにこたえつつ、サービス態勢の向上につとめていきたいと考えている。

開館時間の問題は、筆者も利用した英米などの大学図書館の場合を考慮してみると、諸国民の生活のペースないし習慣、大学の立地環境ともかかわりがあるようだ。例えばマンハッタンの市街地に接するコロンビア大学の中央図書館（バトラー図書館）は学期中は日曜日も午後2－10時の間開館し、月－木曜は朝9時から午後11時まで、金曜日は同7時まで、土曜日は正午から午後5時まで開館する。その他同大学の法学部の図書館は月－金曜は朝9時から午前0時まで、土曜日は午後7時まで、日曜日は正午から午前0時まで開館している。ハーヴァード大学の中央図書館（ワイドナー図書館）の場合は規則的であり、朝9時に開館し月－金曜は午後10時、土曜日は午後5時まで、日曜日は閉館である。ロンドン、ケンブリッジなどイギリスの大学の中央図書館の場合は、学期中は通常朝9時ないし9時半に開館し、月－金曜が午後9時、土曜日は午後5時ないし5時半に閉館、日曜日は閉館である。

図書館業務の電算化は、情報化、情報の国際化の時代に入り図書館業務の大きな柱になりつつある。本学図書館では昭和56年から電算化に取組み、57年4月から本館開架図書約6万5千冊を中心に閲覧管理業務の電算処理を開始した。その後本学情報処理センターとのオンラインによる蔵書データの入力を進め、閲覧管理システムを開発してきたが、積極的な電算化推進にと

もない、情報処理センターのホストマシンの容量不足が顕在化した。そこで全国ネットワークづくりをめざして開設された学術情報センターの目録システムとの接続の要請にこたえるべく、昭和61年度に新たに図書館専用機（NEC150／68VS）を本館に導入し、62年4月から学術情報センターに接続して目録入力を開始、学内では情報処理センターと連携しその援助を受けながら、新たなシステムを構築し、職員の熱心な努力によって現在軌道に乗せたところである。情報検索については、従来からのDIALOG、JOISに加えて、学術情報センターなどのデータベースの検索も行っている。学内では同じく62年4月から全受入れ図書の目録・データ入力を実施しているので、本館では検索用の端末機によってそれらの多面的な検索も可能となり、また一般貸出しのほか各研究室等の貸出し先も一目瞭然となった。冊子目録も年度別に電算機から打ち出したものを用意している。現時点では収蔵データは62年4月以降の受入れ図書と開架図書が中心であるが、書庫収蔵図書についても貸出ししたものは入力しており、今後も利用ニーズが高い部分から入力を進める方針である。電算化にともない、入力、情報検索、閲覧管理、本学情報処理センターとの関連など多くの面で課題が生じており、今後とも学内諸賢のご教示とご援助を請う次第である。

「旧人類」の中にはコンピューターに拒否反応を示す方もおられるようであるが、検索用端末機も近くふやせる予定であり、気軽にキーをたたいてみられることをおすすめしたい。各研究室の端末機からでも検索が容易になる山口・宇部両地区を統合した学内検索システムも近く完成の運びとなっており、ファクシミリによる複写の全国ネットワークづくりも進捗しつつある。雑誌の閲覧・書架めぐりや端末機のキーをたたきに行ってみようか、という気持になれるような図書館の実現も、遠い夢ではないことを願っている。

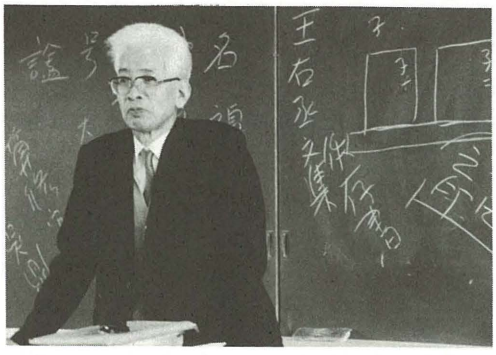
（附属図書館長、教養部教授）

「明倫館・山口明倫館・越氏塾旧蔵和漢書目録」の編集を終えて

蘰　永　秀　夫

「明倫館・山口明倫館・越氏塾旧蔵和漢書目録」（以下「和漢書目録」と略称）は、山口大学附属図書館に在職した当時から、書庫に収蔵されている明倫館など旧藩時代の蔵書印のある図書をみるにつけ、散逸した藩校などの蔵書で現存するものが一覧できる目録があればと思っていたもので、この目録が完成してホッとしているところである。しかし今回調査の対象とした明倫館、山口明倫館、越氏塾の蔵書が現在どれだけ伝わっているか分からないめた、このほかにも調査から漏れた図書がまだ可なりあるのではないかということも気になるところである。実際に調査してみると藩校の現存図書についての情報は少なく、また多くの場合一般の図書と混架されているため、目録での検索ができない場合、全蔵書に一点一点当たらなければならないという状況であり、前記のような調査漏れの不安はどうしてもなくなることはないように思われる。明倫館の蔵書の場合、今回収録できたのは同館の全受入冊数一割程度である。

三校の蔵書は山口大学附属図書館ではその大部分が別置されているが、その他の所蔵館では一般の図書と混架されており、このうち山口県立山口図書館と萩市立図書館では目録による検索が可能である。



和漢書のほかに今回は対象としなかったが洋書も現存しており、確認している数は次のとおりである。

「明倫館印」：萩高等学校　2冊

「周防国明倫館図書印」：山口大学附属図書館　2冊、萩高等学校　12冊

所蔵調査にあたって「和漢書目録」に挙げた目録（「解説四、目録」参照）のほか「防長に伝わる契沖資料今井似閑本目録」、現在の所蔵館の目録など幾つかの図書目録を参考とした。これらの目録は題簽書名を書名としたものが多

く、この点「和漢書目録」では書名は原則として巻頭書名から採り、題簽書名を注記することとしたため、巻頭書名と題簽書名が異なる図書の場合当然書名が異なることになる。例えば、巻頭書名が「周易」で題簽書名が「易経集註」の図書は「明倫館御書物目録」（吉田樟堂文庫）では子百二十六に「易経集註」としているが「和漢書目録」では「周易」から記入し「易経集註」は注記となっている。このためこの二つの目録を照合する際、書名だけでは判別が困難でさらに改印、分類番号など他の注記事項も参考にすることが必要で、「和漢書目録」はこれまでの所蔵目録との関係ではいささか不便な目録となった。

明倫館、山口明倫館及び越氏塾で使用された蔵書印は「和漢書目録」に掲載した印譜 1－7のとおりであるが、山口明倫館の図書にはほかにも「和漢書目録」の注記のように数多くの蔵書印がみられる。それらは大別すると山口明倫館へ受け入れられる前の所蔵者のものと、明治の学制改革以後の所蔵者の蔵書印である。前者には印譜 8 －11のほかに「長門図書」「長門内庫図書」「有備館之章」「軍事局章」「陸軍局章」など十余点あり、後者には「巴城学舎」「鴻城学校」「学務課章」など図書を引き継いだ機関や「前原氏文庫章」「はなおかなるひろのしるし」「横地氏珍蔵記」など所蔵した個人の蔵書印が約二十点ある。これらの中には「長門図書」のように所蔵者不詳のものもあるが、押印されている図書や並べて押されている他の蔵書印と合わせてみると、図書の流伝、学校制度や行政組織の変遷の様子などを知るにも大変参考となる。

蔵書印の写真複製は白水完児氏（農学部）のご好意によるもので、ここに改めて厚く謝意を表するものである。

蔵書の散逸状況については、三校の所蔵冊数に関する資料がないためその数は正確には分からないが、今回収録した 691 部 7,542 冊の何倍もの図書が散逸したものと思われ、今井似閑本がほぼ完全に伝わっているのみである。

全国には慶応末（1867）230校の藩校がありその蔵書数は概算 61,000 点 1,049,000 冊あった（「国立国会図書館百科」1988）が、現在所蔵が伝えられているのは信州大学5,163 冊、愛知教育大学（冊数不詳）、滋賀大学 21,617 冊、和歌山大学 24,563 冊、熊本大学 3,101 冊、高鍋町図書館（宮崎県） 15,815 冊（秋月文庫共）、国立国会図書館 3,183 点 43,630 冊などである。このほかにも現存するものはあると思われるが、「日本教育資料」（明治23）でも蔵書数不詳となっている藩校が多く、明治の学制改革の際これらの藩校の蔵書も山口県の場合と同じように散逸したものと思われる。このような図書の散逸をみると図書館の蔵書も時勢に無関係ではないことを改めて知らされる思いであり、逸書を歴史上の出来事としてしか見てこなかったことを反省するものである。

（元山口大学附属図書館職員）

利　用　者　の　声

人文学部人文学科 4 年
山　本　　薫

大学に入学した当時は、私も物珍しさに、よく図書館を利用しました。その頃は特に、高価で自分では到底買えない、美術全書などを図書館で鑑賞しました。館内は人が少なく静かで、誰にも邪魔されずに心ゆくまで堪能できました。最近はと言うと、図書館に来るといったら、情けないことに週に 2 回、夜間開館のアルバイトの時だけです。何故、足が遠のいたのかと申しますと、2 年になって研究室に入りますと、専門書が研究室に掃いて捨てる程あり、かって私が喜んで見ていた美術全書なんぞ、牛小屋のわらのように研究室に積み上げられており、わざわざ図書館まで足を運ばなくてもよいわけです。本の借用という点では研究室だけでも充分でしたが、しかし、別な面でもっと図書館を利用すればよかったと思います。

例えば、図書館の環境を利用することです。冷暖房完備でこれだけ静かな所は他にないでしょう。（教会が静かだといっても今日びの教会は連日の観光客でにぎわっていますし）夏は暖房、冬は冷房の下宿で、（最近は事情が違ってきたようですが…）でれでれテレビを見ながら勉強するよりも、図書館でやった方が能率は上がると思います。また、ビデオのない方は利用した方が得です。（一人で泣いたり笑ったりするのは、はたから見て少しブキミですが…）新聞も各社のものがそろっています。フランス語からドイツ語、中国語もちろん英語のテープも

あります。つまり、自分で勉強しようと思えば、図書館はより多くの必要なものを、ほとんど無料で提供してくれます。また、自分のアイデア次第で図書館の利用法に幅ができると思います。（ただ本を借りるだけではなくて）そのためにはまず、図書館がどんなものなのか、何があるのか改めて知る必要があると思います。10分でも図書館に来て、見て、知って、自分でどんどん活用して欲しいと思います。

人文学部人文学科３年
猪　熊　謙　好

入学してすぐの頃、自動ドアの横にある赤外線カウンターを見つけその前を行ったり来たりして遊んでから早くも３年目です。図書館へ行けば新聞があると新聞をとらず、時刻表も買わずと利用しています。図書館を利用して、意外に探すのが手間どったのが、雑誌のバックナンバーです。ニューズ・ウイークを探して書庫を探しまわったのですが、なく、別館でやっと手に入れました。一般にこの別館が知られておらず、自分も図書館のバイトをして知ったのですから、書庫、エレベータールートのアピールを。

図書館のにぎわう試験中やレポート提出の迫った週など特に思う事なのですが、日曜日も図書館を開館して欲しいのです。恥ずかしい話、土曜ですら８限もあり、ゆっくり利用できる日が欲しいのです。また、５時に書庫が閉まるのでなく、出来るならもう少し遅くしてもらいたいです。図書館の職員の人も公務員で難しいだろうと思いますが、利用者は確実にいると思います。

さて、ビデオ・レーザーディスクの棚を見て思うのですが、映画の利用が多く、語学が少ないみたいです。映画は見ていればいいけれど語学は、能動的に参加するものだからではないでしょうか。数が少なく使いたい時使えない人が出ると困る現状では無理ですが、家に持って帰れるようにしてもらいたいものです。また、教養部のＬＬや研究室の持っているビデオ資料等の目録があれば便利だと思います。

希望ばかり言いましたが、もう一つ、メモ帳をもう少し置いてみてはどうでしょうか。以外に利用者はあると思います。

無理な望みばかり書きましだが、高くて買えなくなった本があって助かった事もしばしばです。普段読まないような本が誰かにとって、必要な本であるのだから、ハードカバー離れが進み次々廃刊される今、図書館がある事は学生の強みだと思います。

人文学部人文学科３年
柿　並　理　絵

山口大学附属図書館に入ってすぐ、玄関ホールのど真ん中に置いてある、ガラスのふた付きの木の箱に足のついたようなやつ。実は私は、つい最近まであれが何のためにあるのか知らなかった。と言うより、ほとんど意識しなかったとでも言った方が良いかもしれない。ただ漠然と、「昔はここに何かが展示されてたんだろうな」と思う程度だった。（その割に箱がそう古くないが、）実際、あの箱の細長い列は、玄関ホールを真っ二つに分け、書庫や閲覧室へ行く人と学習室へ行く人との通路を示すための単なる仕切りのようにさえ思えた。

ところが、今年の二月ごろだったろうか。借りた３冊の本をかかえ、カバンを肩に下げ、貸出しカウンターから出て来た私は、荷物の整理をしようとして、例の箱の所に立ち寄った。（ちょうど良い高さだったもので。すみません）そして、ふと気が付くと、ガラスのふたの下に、何かが展示されている。そこには、「肖像画にみる古代の人々」と題されヤマトタケルノミコトから八世紀代の人物まで、様々な肖像画が陳列されていて、とても興味深かった。

しかし、私はそれまでその展示のことは全く知らなかったし、友人に聞いてみてもやはり、「気付かなかった」という返事が帰ってきた。失礼ながら、たしかに目立たない展示方法だったと思う。また、持ち帰り用の資料も簡単で要領を得ず、私としてはかなり不満が残った。

せっかくの良い資料展だったのだから、もっと宣伝をする（ポスターを書いてはってみるなど）なり、展示台の配置を横にしてみるなりして目立たせたり、もう少し詳しい持ち帰り資料を用意するなりしてほしかった。

普段私たち学生があまり見ることのできない資料の展示ということで、立派な展示台もあることだし、今後も期待しています。

平成元年度附属図書館関係各種委員会
委員名簿（平成元年６月１日現在）

◇　運営委員会　　◎印は委員長

◎ 古賀秀男（館　長）　瀧口　治（経済学部）　西頭徳三（農学部）
竹尾和典（医学部分館長）　山城崇夫（経済学部）　小杉健三（教養部）
土屋　晉（工学部分館長）　久保田幸雄（理学部）　中野良弘（教養部）
阿部泰記（人文学部）　安倍清彦（理学部）　篠崎文彦（附属病院）
井上三朗（人文学部）　黄　基雄（医学部）　緒方幡典（医療短大）
伊東　斌（教育学部）　中川浩二（工学部）　藤本幸雄（工業短大）
重岡　徹（教育学部）　飴山　實（農学部）

◇　本館図書委員会

◎ 古賀秀男（館　長）　瀧口　治（経済学部）　西頭徳三（農学部）
澤谷昭次（人文学部）　山城崇夫（経済学部）　松井幸子（教養部）
豊澤　一（人文学部）　宮川　勇（理学部）　谷口　仁（教養部）
伊東　斌（教育学部）　磯崎行雄（理学部）　辻　武夫（事務部長）
中尾佳行（教育学部）　飴山　實（農学部）

◇　医学部分館図書委員会

◎ 竹尾和典（分館長）　篠崎文彦（臨床）　小田裕胤（臨床・助講）
黄　基雄（基礎）　佐田英明（基礎・助講）　緒方幡典（医療短大）

◇　工学部分館図書委員会

◎ 土屋　晉（分館長）　泉　照之（電気）　篠塚雄三（共通）
藤満達朗（機械）　酒井義郎（生産）　藤田武男（工短）
池田　攻（資源）　大佐々邦久（化工）　藤本幸雄（工短）
右田たい子（工化）　小柳　剛（電子）
中園真人（土木）　中川浩二（建設）

寄贈図書

（本館）

末松　壽（人文学部教授）
文字とコミュニケーション　Robert Escarpit著　末松壽訳　白水社　1988

平田　昌司（人文学部助教授）
文様の博物誌　吉田光邦著　同朋舎　1985

大塚　博久（教育学部教授）
「人民日報」読者来信　日本評論社　1982
続「人民日報」読者来信　日本評論社　1986

功刀　俊雄（教育学部講師）
論集国際労働者スポーツ　民衆社　1988

五島　淑子（教育学部助手）
論集東アジアの食事文化　平凡社　1985

千葉　喜彦（理学部教授）
低周波生物時系列の処理解析システムの開発（科研報告書）

西頭　徳三（農学部助教授）
現代農学論集「柏祐賢著作集」完成記念出版会編　日本経済評論社　1988

古賀　大三（農学部助教授）
最後のバイオマス、キチン、キトサン
技報堂　1988

古賀　秀男（教養部教授）
歴史科学入門　三省堂　1986

中村　幸士郎（教養部教授）
シェイクスピアと人間の本質

Shakespeare and the nature of man
編註者　中村幸士郎　　松柏社　昭和58年

シェイクスピアー悲劇から新生へ
Shakespeare－from tragedy to rebirth
編註者　中村幸士郎　　松柏社　昭和59年

伊豆　大和（教養部教授）
フイッツジェラルドの長編小説　伊豆大和著
旺史社　1988

飯倉　洋一（教養部講師）
佚斎樗山集　飯倉洋一校訂　　国書刊行会
1988　（叢書江戸文庫13）

関谷　透（医学部教授）
前庭神経節細胞と前庭神経炎　関谷透　桧学　原田康男　高橋昭　　山口大学・迷路会　1988

山本　泰男（名誉教授）
遥かなヨーロッパロシア　山本泰男著
ヒューマンドキュメント社　1989

（工学部分館）
矢田部　俊一（元工業短期大学部教授）
Grand dictionnaire encyclopédique Larouse.
Larouse, 1985. 15 t.　1 set.

教官著作物コーナーを設置！

本学教官の著作物を一箇所に集中配架してその紹介と利用を図るため、本館開架閲覧室に教官著作物コーナーを設置しました。このコーナーの図書も貸出ができます。

なお、いまだその冊数も少なく、今後、このコーナーを充実させるためには、教官各位において著作物を刊行した場合、その著作物のご寄贈をあおがなければなりませんので、よろしくご協力の程お願いします。

留学生用図書コーナーも設置

学術の国際化に伴って、近年、本学にも多数の外国人学生が留学しています。利用者サービスのより一層の向上を目指す一環として、外国人留学生のために留学生用図書コーナーを本館開架閲覧室に設けましたので、ご利用下さい。又、本学から外国へ留学する研究者、学生のための資料も若干ですが、備える予定です。

次号にはこのコーナーに配架している図書リストを掲載します。

『明倫館・山口明倫館・越氏塾旧蔵和漢書目録』を刊行

明倫館は萩藩の藩校ですが、本学には、山口師範学校を経て、約 5,000 冊の明倫館旧蔵書が所蔵されています。

明倫館旧蔵書は明治初めに多くが散逸しましたが、この目録は、本学附属図書館の元事務官蘰永秀夫氏が、萩明倫館、山口明倫館そして幕末に明倫館の直轄となった越氏塾（防府市）の旧蔵書について、山口県立図書館を始め山口県下の所蔵機関を調査した現存所在目録です。約 7,600 冊の和漢書が収録されています。

明倫館旧蔵書が目録として一つにまとめられたことにより、これら資料の利用が促進され、学術研究や調査、学習に役立てば幸いです。

『山口大学附属図書館電算化システム』を刊行

本学の図書館業務電算化は、昭和56年度に開始されましたが、このたび、学術情報センター目録登録が本格化し、館内処理がトータルシステムとして全面稼働したのを機に、電算化システムの現況を

とりまとめた報告書を刊行しました。
この出版を契機に、本学の図書館業務電算化がさらに飛躍することが期待されます。

ファクシミリによる文献複写について

今年度から、本学に所蔵していない文献の複写物は、ファクシミリによって入手可能な大学図書館があります。一刻も早く文献複写物を必要とする場合には、この方法で取り寄せますので、「学外文献複写申込書」の複写方式の欄にチェックして下さい。ファクシミリ複写料は、通信料込みで1枚に付90円です。便送による方法とファクスによる方法との複写料金（送料含む）比較は次表のとおりです。

表

複写枚数	郵　　送	ファクシミリ
1 ～ 4	112 ～ 272円	90 ～ 360円
5 ～ 8	370 ～ 575	450 ～ 720
9 ～ 12	625 ～ 800	810 ～ 1, 080
13 ～ 20	900 ～ 1, 250	1, 170 ～ 1, 800

B 4複写物単価：50円

人事異動

〔昇任〕（1.　4.　1）
辻　　武　夫　事務部長（大阪大学附属図書情報サービス課長から）
青　木　康　郎　情報管理課長（信州大学学生部入学主幹から）
〔配置換〕（1.　4.　1）
前　川　英　夫　（事務部長）一橋大学附属図書館事務部長へ
加　藤　宗　晴　（情報管理課長）東京学芸大学附属図書館情報サービス課長へ
松　本　美智子　情報管理課整理係（情報サービス課雑誌係から）
江　見　伸　子　情報サービス課雑誌係（情報管理課整理係から）
〔併任〕（1.　4.　1）
古　賀　秀　男　附属図書館長
〔併任解除〕（1.　4.　1）
小　川　國　治　（附属図書館長）

日　　誌

3月 2日（木）　昭和63年度附属図書館職員研修会：大学図書館における参考業務の諸問題について　講師　東京大学教育学部　教授　長沢　雅男
3月 30日（木）　「明倫館・山口明倫館・越氏塾旧蔵和漢書目録」刊行記念講演会：萩・毛利藩藩校の蔵書について　講師　菰永　秀夫
4月 18日（火）～19日（水）　第37回中国・四国地区大学図書館協議会総会（於広島県厚生年金会館）
4月 19日（水）　第16回国立大学図書館協議会中国・四国地区協議会（於広島厚生年金会館）
5月 29日（月）　平成元年度国立大学附属図書館事務部課長会議（於東京医科歯科大学）

編集・発行　山口大学附属図書館　〒753　山口市大字吉田　電話（0839）22－6111　内線788
ＦＡＸ（0839）23－2124